

2016年（平成28年）

8月5日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 (一財)日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階
ホームページ <http://oil-info.ieej.or.jp>

■ 概況

7/21~7/27のNYMEX・WTIは、44.75ドルから41.92ドルへと5営業日連続で値下がりする一週間となった。

7月28日は、前日の米国エネルギー情報局(EIA)週報の原油・ガソリンの在庫報告、この日の民間情報会社のWTIの受け渡し点であるクッシングの在庫増加の報道等、供給過剰感が根強く、6営業日続落した。9月限の終値は、前日比0.78ドル安の41.14ドルとなった。

週末29日は、連日の下落から、ショートカバーや安値拾いの買いが入ったほか、対ユーロのドル安による原油の割安感を背景に反発したものの、根強い供給過剰感から上値は重かった。9月限は前日比0.46ドル高の41.60ドルで終了した。

週明け1日は、ロイターのOPEC7月原油生産量が過去最高、パーカーヒューズ社の米国内石油掘削リグ稼働数の5週連続増加による7月月間増加数(44基)の2年振りの純増報道など、一段と世界的な需給緩和の長期化懸念が広まり大幅反落、一時は3ヵ月半振りに40ドルを割り込んだ。9月限の終値は、前週末比1.54ドル安の40.06ドルとなった。

2日は、引き続き、供給過剰感の地合いを背景に続落し、4月7日以来4ヵ月振りに終値で40ドルを割り込んだ。9月限の終値は、前日比0.55ドル安の39.51ドルだった。

3日は、EIA週間統計で、米国原油在庫が市場予想(140万バレル減)に反して増加(140万バレル)したものの、ガソリン在庫が市場予想(20万バレル)を大きく上回る減少(330万バレル)を示したことから、上昇基調に転じ3営業日振りに反発した。9月限の終値は、前日比1.32ドル高の40.83ドルだった。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(8月渡し)は、前週43.20ドルから40.60ドルへと下落を続けた。28日は39.90ドル、29日は39.00ドル、1日は40.40ドル、2日は39.10ドル、3日は38.60ドルと、40ドルを割りこむ展開となった。

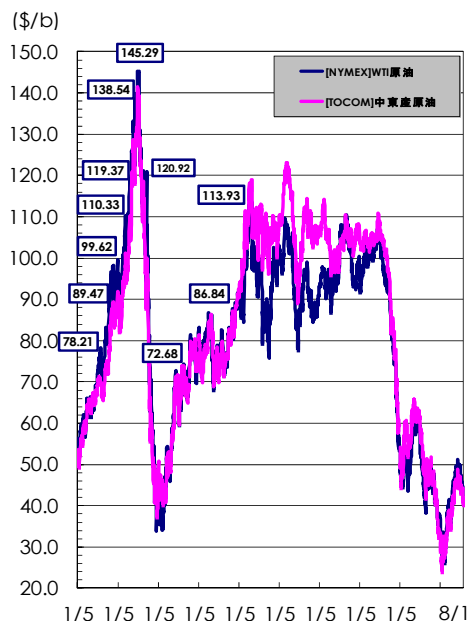
為替は、前週105.02~107.29円の範囲で推移した。28日は104.69円、29日は104.42円、1日は102.45円、2日は102.39円、27日は101.16円と円高方向で推移した。

財務省が28日発表した貿易統計速報(旬間ベース)によると、7月上旬の原油輸入平均CIF価格は、前旬比676円上げの31,404円/kl。ドル建てでは47.98ドルで前旬比2.03ドル安。為替レートは1ドル/104.07円。

主要元売会社の8月第2週に適用するガソリンと中間留分の卸価格は、据え置きから2.0円の値上げに分かれた。原油は値下がりし、為替も円高で、原油コストは値上がりした。

そのような中で、8月1日時点の小売価格は、ガソリンが0.1円値下がり122.1円、軽油は横ばいの102.4円、灯油は横ばいの63.9円だった。ガソリンは5週連続の値下がり、軽油は6週振りに値下がり止まり、灯油は3週振りに値下がり止まった。この週の原油コストは小幅な値上がり、元売の卸価格は据え置きと1.0円の値上げに分かれた。

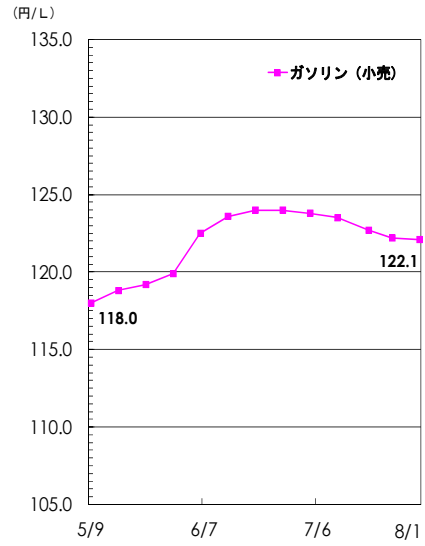
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	7/24 ~ 7/30	3,748 ▲ 163	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	88.2 ▲ 3.9	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	7/30	15,283 ▲ 123	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	8/1	41.18 ▼ -1.12	▼ -9.9
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	8/1	40.06 ▼ -3.07	▼ -5.1
	原油CIF単価 (\$/bbl)	7月上旬	47.98 ▲ 2.03	▼ -15.80
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	31,404 ▲ 676	▼ -17,958
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	104.07 ▲ 2.25	▲ 18.97
	外国為替TTSレート (¥/\$)	8/1	103.45 ▲ 4.05	▲ 21.59



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週		前週比	前年比	
需給	生産	7/24 ~ 7/30	1,071	▼ -23	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	n.a.	
	出荷	"	1,042	▼ -16	▼ -	
	輸出	"	68	▲ 68	▲ -	
	在庫	7/30	1,710	▼ -39	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	7/26 ~ 8/1	41.6	▲ 1.8	▼ -15.4	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	7/26 ~ 8/1	39.9	▼ -1.3	▼ -15.9
		(TOCOM/中部)	8/1	39.3	▼ -0.9	▼ -15.7
	小売 [週動向] (資工庁公表)	8/1	122.1	▼ -0.1	▼ -19.2	

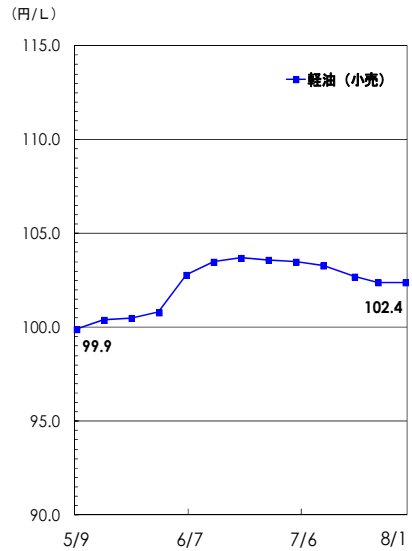
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

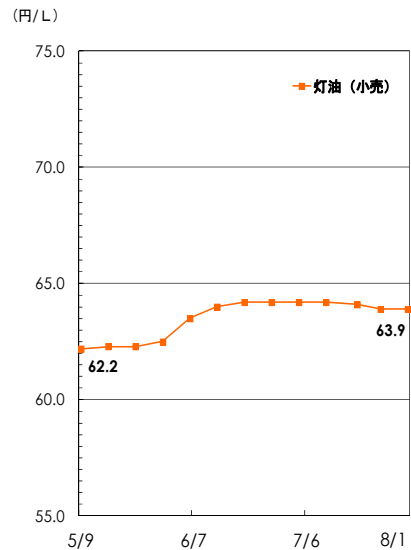
軽油		今週		前週比	前年比	
需給	生産	7/24 ~ 7/30	738	▼ -103	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	n.a.	
	出荷	"	638	▲ 43	▼ -	
	輸出	"	94	▼ -156	▼ -	
	在庫	7/30	1,508	▲ 7	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	7/26 ~ 8/1	39.5	▲ 0.6	▼ -13.0	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	7/26 ~ 8/1	37.2	▼ -0.6	▼ -14.1
		(TOCOM/中部)	8/1	-	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	8/1	102.4	▶ 0.0	▼ -17.7	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週		前週比	前年比	
需給	生産	7/24 ~ 7/30	206	▲ 12	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	n.a.	
	出荷	"	119	▲ 12	▲ -	
	輸出	"	0	▶ 0	▶ -	
	在庫	7/30	2,180	▲ 87	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	7/26 ~ 8/1	38.5	▲ 1.0	▼ -14.0	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	7/26 ~ 8/1	37.3	▼ -0.7	▼ -13.8
		(TOCOM/中部)	8/1	37.0	▼ -1.4	▼ -14.7
	小売 [週動向] (資工庁公表)	8/1	63.9	▶ 0.0	▼ -20.5	



■ 関連情報

1 海外/原油

3日のNYMEX市場のWTI原油は、米エネルギー情報局(EIA)の発表した週間統計で、米国原油在庫が市場予想(140万バレル減)に反して増加(140万バレル)したものの、ガソリン在庫が市場予想(20万バレル)を大きく上回る減少(330万バレル)を示したことから、供給過剰感が薄らぎ、上昇基調に転じたことで3営業日振りに反発した。

取引の中心限月である9月限の終値は、前日比1.32ドル高の40.83ドル、10月限の終値は、前日比1.28ドル高の1バレル41.58ドルだった。

EIAによると、8月1日時点のガソリンの小売価格は全米平均で前週比2.3セント値下がりの1ガロン2.159ドル(52.9円/ℓ)となった。ディーゼルは前週比3.1セント値下がりの2.348ドル(64.1円/ℓ)。ガソリンは7週連続の値下がり、軽油は5週連続の値下がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、7月24日～30日に休止したトッパー能力は、9.3万バレル/日と前週に比べて11.5万バレル減少。(全処理能力は381.7万バレル/日)。

原油処理量は374.8万klと、前週に比べ16.3万kl増加。前年に対しては3.6万klの減少。トッパー稼働率は88.2%と前週に対して3.9ポイントの増加、前年に対しては1.4ポイントの増加となった。

生産は前週に比べてガソリン、ジェット、軽油が減産となり、その他の油種で増産となった。ガソリン/2.1%減、ジェット/4.5%減、灯油/6.4%増、軽油/12.2%減、A重油/6.0%増、C重油/1.3%増。今週のC重油の輸入は9.3万kl(前週比4.4万kl増)。軽油の輸出は9.4万kl(前週比15.6万kl減)。

出荷(販売量)は、前週比ではガソリン、ジェット、C重油が減少し、その他の油種で増加した。前年比では灯油、A重油が増加し、その他の油種で減少した。原油価格の値下がり、為替の円安が続く中で、小売価格は5週連続の値下がりとなり、ガソリンの出荷は104.2万kl(対前週1.5%減)と3週振りに前週比で減少、2週振りに前年比で減少となったが、5週連続で100万klを超えた。

ジェット7.7万kl(対前週34.6%減)、灯油11.9万kl(対前週11.8%増)、軽油63.8万kl(対前週7.2%増)、A重油18.9万kl

(対前週1.3%増)、C重油30.9万kl(対前週2.0%減)。

(単位:千KL)

	今週 (7/24 ~ 7/30)	前週 (7/17 ~ 7/23)	前週比
ガソリン	1,042	1,058	▼ -16 (-2%)
ジェット燃料	77	118	▼ -41 (-35%)
灯油	119	107	▲ 12 (11%)
軽油	638	595	▲ 43 (7%)
A重油	189	187	▲ 2 (1%)
C重油	309	316	▼ -7 (-2%)
合計	2,374	2,381	▼ -7 (-0%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

7月30日時点の在庫はガソリン、ジェットが取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。前年に対してはガソリン、灯油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。

ガソリンは171.0万kl、前週差3.9万kl減。前年に対しては14.4万kl多い。

灯油は218.0万kl、前週差8.7万kl増。前年に対しては34.0万kl多い。

軽油は150.8万kl、前週差0.7万kl増。前年に対しては29.1万kl少ない。

A重油は76.1万kl、前週差1.4万kl増。前年に対しては3.8万kl少ない。

C重油は189.3万kl、前週差2.4万kl増。前年に対しては22.1万kl少ない。

(単位:千KL)

	今週 (7/30)	前週 (7/23)	前週比
ガソリン	1,710	1,749	▼ -39 (-2%)
ジェット燃料	1,012	1,043	▼ -31 (-3%)
灯油	2,180	2,093	▲ 87 (4%)
軽油	1,508	1,501	▲ 7 (0%)
A重油	761	747	▲ 14 (2%)
C重油	1,893	1,869	▲ 24 (1%)
合計	9,064	9,002	▲ 62 (0.7%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

7月26日から8月1日までの原油コストは、原油価格は値下がり、為替レートは円高で共にコスト引き下げ要因だったことから、小幅な値下がりが見られる。

陸上スポット価格は、ガソリン95円台、軽油39円台、灯油38円台で強含みながら小幅に推移した。海上スポット価格は、ガソリン94～95円台、軽油41～42円台、灯油35～37円台でこちらはやや軟化した。先物価格はガソリン93～94円台、軽油37円台、灯油36～37円台でこちらも小幅に軟化した。原油コストの下落が、先物から海上物まで波及してきている。元売の卸価格は据え置きから2.0円の値上がりだった。

EMGマーケティングは4日、6日以降出荷分の陸上外販スポット価格について、全油種据え置き旨を通知した。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

円安による原油コストの上昇と元売の卸価格値上げを受けたものの、製品スポット市況は、陸上物が堅調だった以外は軟調に転じた。週間のガソリン販売量は、5週連続で100万klを超えた。

8月第2週(8月4日～8月10日)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(7月26日～8月1日/千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは1.8円、灯油は1.0円、軽油は0.6円の値上がりだった。東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが1.4円、軽油は1.3円、灯油は0.7円の値下がり、先物価格は、ガソリンが1.3円、灯油が0.7円、軽油が0.6円の値下がりだった。原油コストの値下がりに伴い、先物から海上物は軟化した、陸上物には元売の卸価格引き上げの影響が残った。

8月第2週の大手元売の卸価格は、据え置きから2.0円の値上がりだった。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM) (単位: 円/ℓ)

[陸上ローリー 4地区平均]	今週 (7/26 ~ 8/1)	前週 (7/19 ~ 7/25)	前週比
	レギュラー	41.6	39.8
灯油	38.5	37.5	▲ 1.0
軽油	39.5	38.9	▲ 0.6

(TOCOM) (単位: 円/ℓ)

[期近物/終値] [平均]	今週 (7/26 ~ 8/1)	前週 (7/19 ~ 7/25)	前週比
	レギュラー	39.9	41.2
灯油	37.3	38.0	▼ -0.7
軽油	37.2	37.8	▼ -0.6

※上記価格は税抜き価格

参考値 (7/26～8/1実績値) (単位: 円/ℓ)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 1.8	▼ -1.3	▲ 0.3
灯油	▲ 1.0	▼ -0.7	▲ 0.1
軽油	▲ 0.6	▼ -0.6	➡ 0.0
A重油	▲ 0.5		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

8月1日時点におけるSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.1円値下がりの122.1円、軽油は横ばいの102.4円、灯油は横ばいの63.9円だった。ガソリンは5週連続の値下がり、軽油は6週振りに値下がり止まり、灯油は3週振りに値下がり止まった。

都道府県別の動向として、ガソリンの値上がりは16府県、横ばいは5府県、値下がり26都道県だった。都道府県別のガソリンの全国最安値は、埼玉県(前週比0.5円安)の116.6円、次が秋田県(前週比0.5円高)の117.1円だった。最高値は長崎県(同1.1円安)の131.6円だった。都道府県別で最も

値上がりしたのは前週比0.8円高の福井県(124.1円)、最も値下がりしたのは前週比1.1円安の長崎県(131.6円)だった。

原油コストは小幅な値上がり、卸価格は各社対応が分かれたが、5週連続で小売価格は値下がりした。原油価格の値下がり円高で、原油コストは値下がりしたが、一部の元売りは卸価格を引き上げた。次週の小売価格は、小幅な値動きが予想される。

(単位: 円/ℓ)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (8/1)	前週 (7/25)	前週比	直近高値	
レギュラー	122.1	122.2	▼ -0.1	08/8/4	185.1
灯油	63.9	63.9	➡ 0.0	08/8/11	132.1
軽油	102.4	102.4	➡ 0.0	08/8/4	167.4

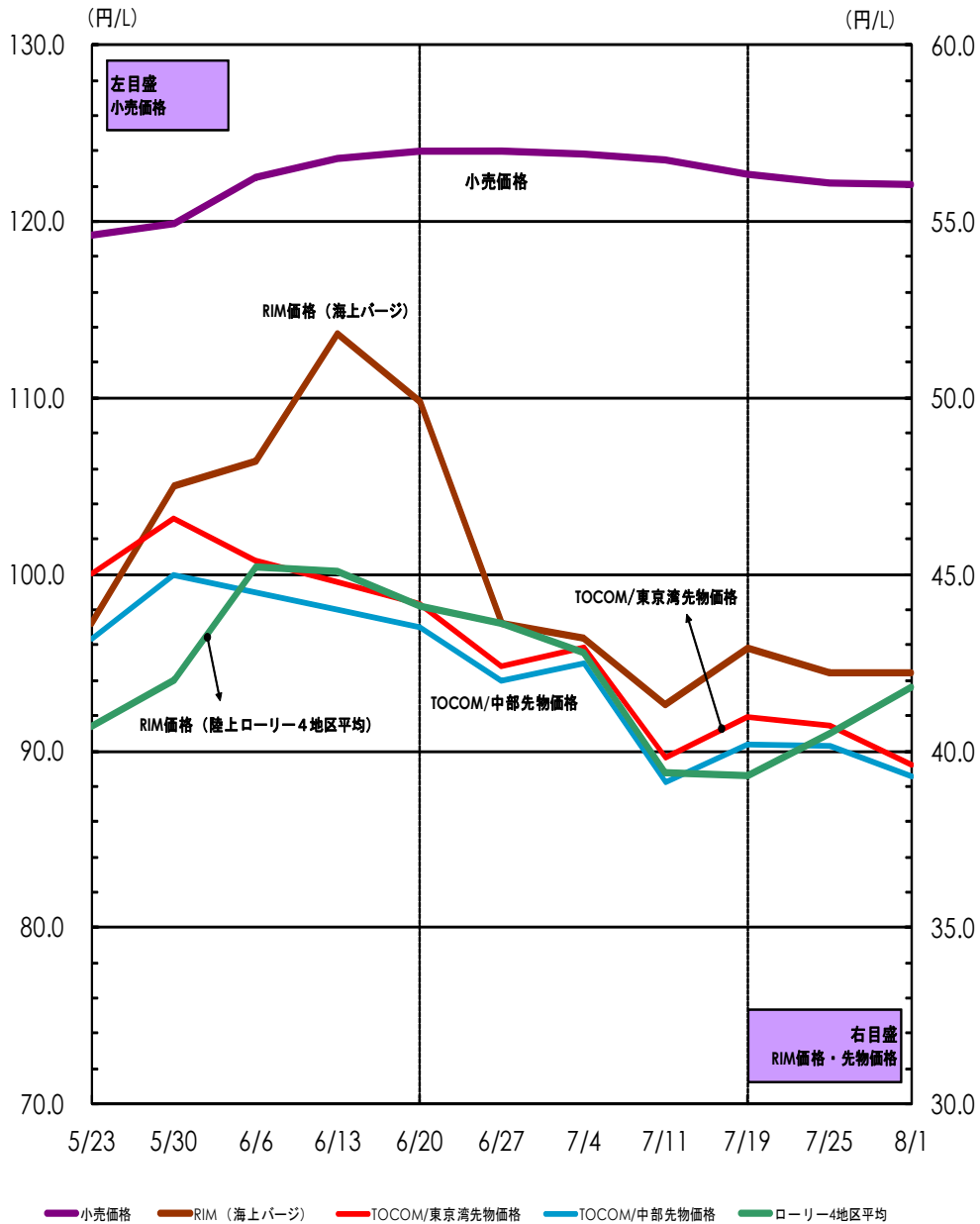
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2016/5/23 ~ 2016/8/1)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<http://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2016第19号)の公表は、8/12(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成28年3月末現在)は、8月3日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈運動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。